

【日時】2019年9月27日（金）13:00～16:00

【場所】千葉大学西千葉キャンパス 文学部・法政経学部1号館101教室

【出席者】石戸光（千葉大学大学院社会科学研究院 教授）

畑佐伸英（名古屋経済大学経済学部 教授）

渥美利弘（明治学院大学経済学部 准教授）

松尾昌樹（宇都宮大学国際学部 准教授）

池田明史（東洋英和女学院大学 学長・教授）

水島治郎（千葉大学大学院社会科学研究院 教授）

■石戸光「関係性と政治経済的地域統合：グローバル関係学の構築へ向けて」

マクロ：全体 メソ：国家やその中の団体 ミクロ：個人

関係性と主体の特性の相互作用性。

マクロ・メソ・ミクロ間の相互作用的な「場」。

基本的に主体をみるが、関係性によって主体は主張内容を変えていく。

国家と国家のゆるやかな関係性が「地域統合」につながる。

■畑佐伸英「地域統合が重層化する理由ーアジア太平洋地域から考える」

地域統合がアジア全体で重層的に拡大している。

FTA（自由貿易協定）参加国が拡大し、経済的メリットが増加している。

WTOへの回帰により、開かれた地域主義がある。

ASEAN設立（1967年）、APEC設立（1989年）、TTP構想（2008年～）

RCEPとFTAAPとTPPが並立形成されている。

地理・空間では、東アジア主義とアジア太平洋主義。

規範・慣行では、ASEAN WayとWestern Way。

組織形態では、定例会議を伴う国際組織とアドホック的な経済協定。

経済ルールと自由化の程度では、途上国ルール（緩やかな自由比）と先進国ルール（高度な自由比）。

バランスングとヘッジングでは、中国・米国・ASEANがポイント。

■渥美利弘「国際化する模造品貿易ー地域統合を扇動する国際貿易」

模造品は「模倣品」「偽造品」ともいわれる。

アジアの国や地域との経済的つながりが深まってきており、事実上の経済統合が進展している。

偽造品の範囲拡大（ブランド品から日用品まで）、組織化・組織犯罪が広がり、偽造品の割合は増加傾向（2008年1.9%→2016年2.6%）。

先進国だけでなく、途上国の消費者にも損害を与えている。

「ACTA (Anti-Counterfeiting Trade Agreement) 偽造品の取引の防止に関する協定」を作ったが、現状アジアの途上国の参加はなく、有効性に疑問。

関係性を吟味して取り組みを見直す必要があるのでは？

1次市場と2次市場において同種商品でも多様な価格帯あり（偽造品の1次市場と2次市場の存在）。

1次市場とは、だます企業とだまされる消費者で成り立っている。

2次市場とは、偽物と知っていて消費者が購入すること。

1次と2次では企業と消費者の「関係性」について質的に大きな違いがある。

解決策：まずは1次市場（APC）を取り締まるべき。そしてどこまで「模倣品」を認めるか。

1次市場の問題に集中して、先進国・途上国双方が参加できる形で再検討をするべき。

■松尾昌樹「統合か分断かー石油資源という逆説」

中東地域は石油王が統治する金満国家であり、君主制が未だ維持されたままである。

「レンティア国家（レント収入に依存する国）」とも呼ぶ。

中東では労働力の大多数が移民から成り立つ高移民吸収国。

アラブ首長国連邦では人口の88.4%が移民。

産油国は基本的に労働生産性が高い。

政治制度が倒れない限り、脱炭素化は終わらない。

■池田明史「だれが中東地域を『統合』しうるのかー中東地域における主体の多義性」

中東における、主体と状況と行為という視点。

中東の混乱：主体の状況に対する行動の結果、and/or 状況の主体に対する作用の結果→紛争・内戦が起こる。（旧秩序機能不全と新秩序機能不全とその狭間）

状況の変遷では、二項対決型から多項争闘型へ。

主体の変容では、主体国家体制の溶解と旧体制の解体。

主体の多様性・多義性。暴力の多元化。

■水島治郎「危機に立つ EU—政治空間の多元化？」

3年越しのイギリス EU 離脱問題。

イタリアは右派ポピュリズム政党の同盟が政権を外れ、新 EU 政権の発足。

ヨーロッパ議会選挙は、主流政党の凋落と右派ポピュリズムの拡大、緑派（緑の党）の躍進。

ヨーロッパ統合の原点、ヨーロッパ再生の必要性。

主流派政治（キリスト教民主主義と社会民主主義の二大勢力）の凋落。

多元化する政治潮流とヨーロッパ統合。

右派ポピュリズムの拡大、自由主義の伸長、緑派の躍進（若者たちの気候変動への問題提起）